

令和5年7月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859)

青梅市立総合病院西側にある石神社

昭和32(1957)年に開院した青梅市立総合病院(以下:総合病院)は現在、新病院の建築中です。令和5(2023)年11月本館開院からは、『市立青梅総合医療センター』に名称が変わります。これまで同様に青梅市を中心とした西多摩地域医療の中心となるものと期待されています。さて、その総合病院の西側に^{いしがみしや}石神社があります。のぼりが何本も立っており、『ちがえしの命』と書いてあります。

『にしぶん』(西分神社遷宮百年記念誌)によると、総合病院開院以前の昭和31(1956)年1月30日に総合病院敷地内に鎮座していた石神社を現在地に遷宮して、式典が行われました。

石神社は西分神社の境外末社です。石神社 遷宮記念碑の裏に「當社は元是より東南約百間の地点に創祀せられしものなり青梅綜合病院の建設にあたり當所に遷宮せられたるものなり昭和三十一年六月三十日西分町建之」とあります。

また、『青梅郷土誌』の「第三章 社寺 六、無格社」にも、以下のとおりに書かれています。「勝沼の東方河邊上の畑中にある社で一名オシャモジ様といふ。西分の持。昔は正月の奉幣は西分神社より先であった。石造社屋の銘に言ふ。

明治十三年第五月

西分村

昔、人家が少なかった頃この邊の地は遠い所以持主がなかったので西分でもらつて耕作し、その田地を守護神としてこの社を祀ったと言ふ。(原文)」

これらを読むと、この石神社と西分神社と西分村(現:西分町)とのつながりが深いことが理解できます。

石神社の祭神は『道反乃命』であり、碑文には『ちがえしのみこと』と読み仮名がある。古事記に出てくる古い神様と言われます。

由来については諸説あります。この神様を助け、現世と死の世界を分け(遮断した)、



石神社内の祠



石神社前ののぼり



石神社遷宮記念碑

死の世界を塞いだものが神様の御神体の「石」とされています。

石神社は西分町の西分神社（安産の神）の枝宮で「安産の神、子供の神」とされています。その西分神社の碑文には、「祭神 天之御中主神 旧北辰妙見社神徳 天地創造の神 安産の神」とあります。



こちらにも石神社と道返乃命の名が彫ら

れています。神徳（^{しんとく}神社では神へご加護を願い求めることができるのということ）には「商売繁盛 家運隆昌 縁結び 病魔を防ぎ 喉の病気や 風邪の神」として信仰されています。また、社に杓子を供えその杓子で患部をなでる・ふれると治癒すると伝えられていると彫られています。咳に^{しゃくし}杓子=しゃもじが効く、あるいは飯をよそうしゃもじが口や^{いんこう}咽喉を護るとする考えがあります。そのことから、この石神社を別名『おしゃもじ様』とも呼ばれているものと推察されます。

河辺1～3丁目の多摩川の河岸段丘崖には、お伊勢坂や天王坂^{いせざか てんのうざか}などの坂があることが知られています。その中に石神坂^{いしがみざか}があり、昔の石神社（総合病院正門付近にあったと言われています）に向かった坂です。こちらも別名「おしゃもじ坂」と呼ばれています。



（文責 塚田直樹）

【参考文献】

青梅市教育委員会（1994） 『青梅市市資料集 第四十四号 青梅郷土誌(復刻)』

西分神社奉賛会(1973) 『にしぶん 西分神社遷宮百年記念誌』

河辺老壮大学郷土史研究会（1994） 『河辺郷土史資料集』

青梅市文化財ニュース 195号（平成21年1月15日）

青梅市文化財ニュース 332号（平成27年6月15日）